# 叶わなかった恋…。

HIRO.S

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

## 注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
叶わなかった恋…。

【Ｎコード】
Ｎ４６１５Ｄ

【作者名】
ＨＩＲＯ．Ｓ

【あらすじ】
駅で偶然出会った女性…。その女性に僕は…恋をしたんだ。でも…。こんな失恋…二度としたくない。

## （前書き）

以前搭載させてたものなんですが、編集しました。内容などは同じです。

蝉がうるさい夏の日の事だった…。
その日、僕は久しぶりに会う仲間たちと一緒に騒いでいた。
懐かしい顔ぶれを前に…翌日、仕事がある事なんて忘れていた。

「あっ！もうこんな時間…やべっ」

仲間の一人である啓太が、携帯メールを確認するのと同時に時計を見る。
啓太の言葉を聞いて、僕も携帯電話の時計を見た。
すると、もう夜中の一時を過ぎている。僕たちは急いで、解散した。

翌朝、セットしていた目覚まし時計が鳴り響く。

「…あったま…いって…」

前日のせいか、いつもより目覚めが悪く、そのまま少しだけ布団の上でボケっとしていた。
コーヒーを一杯飲み、顔を洗ってから駅まで急いだ。
目の前で電車のドアが閉まり、遅刻が確実となった。
前日の事を、少し後悔した瞬間だった。

「やっちゃった…」

無惨にも進んでいく電車を見ていると、僕と同じように…電車に乗れなかった君がいたんだ…。

僕は少し恥ずかしくて…それを隠すために、君に愛想笑いをした。
君も僕に微笑み返してくれたね…。
すると、君はゆっくりと僕に近づいて来たんだったね。

「遅刻ですね？」

僕とは違い、君はなんだか落ち着いていたよね…。　電車に乗れなかったというのに…。

「あっ…うん」

僕がうなずくと、君はもう一度口を開いたんだ。

「私と一緒にサボっちゃいませんか？」

その言葉に驚いた僕の目は、大きく開いてなかったかな…？

「えっ！？」

驚いている僕を見て、君はクスクスと笑った。

「今日は素直に生きたいんです。自分の心のままに…ダメですか？」

僕は、断れなかった…いや、断らなかった。
君が…僕の好きだった人に似ていたから。今思えば…似てないかもしれないね。

「名前は？僕は神咲春人」

「上野優里だよ。優里でいいからねっ」

僕は春人でいいって言ったのに、君は僕を、春くんと呼んだよね。
その後、二人で映画館に行ったんだよね…。
「あの映画、実は観たかったんだ…」
映画を観た君は…瞳を濡らしていたね…。
僕には泣いてないって言ってたけど、泣いていたよね。
強がらなくてもよかったのに…『心の優しい女の子』話していて、そう思ったよ。
僕たちは、ほんの少し前に出会ったばかりとは思えないほど、仲良くなった。
出会ったばかりの君に…僕は、心を奪われていた。
笑ってる君…映画を観て瞳を濡らしている君…電車に乗れなくて、本当によかったと思う。
そして、映画館を出てから、昼食を食べにいった。
僕は、ハンバーグを食べたんだ。君は…ごめん、思い出せないよ…。
「ハンバーグ好きなの？」
そんなに美味しそうに食べていたのかな…ニコニコしながら、君は僕に問いかけてきた。
その後は、ゲームセンターに行ったよね。
君がかわいいと言ったぬいぐるみ…僕も君も取れなかったね…。
プリクラも撮ったんだっけ…二人して変な顔したよね。
あっという間に時間が過ぎていき…辺りも暗くなってきた頃、僕たちのサボりも終わろうとしていた。

「今日はごめんね！でも、本当に楽しかったよっ」

「ううん…。誘ってくれてよかった。僕も楽しかったから…」

キラキラと輝く星空の下で、僕は勇気を振り絞った。

「携帯番号教えてくれないかな…？また会えるよね？」

しばらく君は…黙ったままうつむいていたね。

「ごめんね…」

君はその一言だけ言って、またうつむいた。それが…どういう意味かなんて、すぐに分かる。

「いや…僕こそごめんね。そうだよね…」

そうだよね…君はとても綺麗なんだから、付き合ってる人がいるよね。

でも、君は…僕が予想もできない言葉を言ったんだ。

「本当はね…ずっと前から、春くんの事みてたの…」

まさか君が、僕と同じ電車に毎日乗ってたなんて、知らなかった。

「ずっと…好きでした…」

「えっ！？じゃあ…どうして…」

「ごめんね…」

君はその言葉を残して、走りだした。

「なんで…だよ…」

僕は小さな声でつぶやいた。

意味がわからない…僕は、君を追いかけられなかった…。だって、君の頬には…大粒の涙がながれていたから…。

僕の事なんて、もう好きじゃないんだよね…だから…泣いているんだよね…？

追いかけちゃ…ダメだよね…？

その夜、君の事をずっと考えてたよ。なかなか眠れなかったよ。

次の日、僕はいつもより少し早く家を出て、君を待ってたんだよ。

でも…君は現れなかった。一日中君の事を考えながら…仕事をしてたんだ。

家に帰った僕は…テレビのニュース番組を見て…涙が止まらなかった…。

じっとしていられなくて…君と別れた場所に向かった。いるはずのない…君に会いたくて…。

君は…言ってたね…『今日は素直に生きたい…心のままに…』あの時から決めてたんだね…。

もし…僕が電車に乗り遅れなかったら…君はどうしたのかな…。

この恋は最初から叶わなかったのかな…。

今まで、いろんな事を我慢して生きてきたんだろうね…きっと…。

僕もそうだったから…。

でも、僕は生きているよ…。どうして君は…

あの時、僕が追いかけていれば…心のままに君を追いかけてさえいれば…

ごめんね…。気づいてあげられなくて…。
ごめんね…。
君がかわいいと言った…あのぬいぐるみ…。
今、僕の部屋にいるんだ…。
二人で撮った変な顔したプリクラ…大事にしてるからね…。
君は…どうしたのかな…？
君の分まで…これから僕は自分に正直に生きていくからね…。
君に会えて…よかった…。
さよなら…。
叶わなかった恋…。

## （後書き）

最後まで読んでくれた人ありがとうございました。

## ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n4615d/

叶わなかった恋…。

2010年12月7日15時18分発行